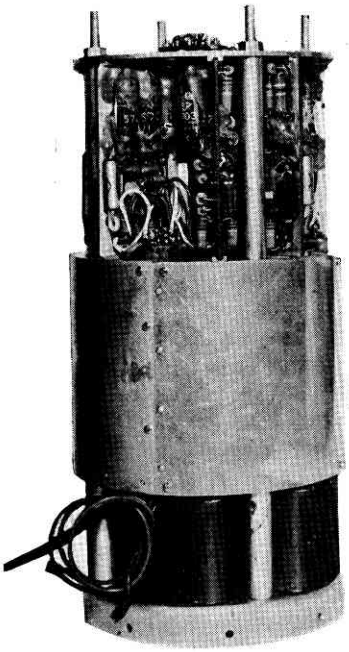
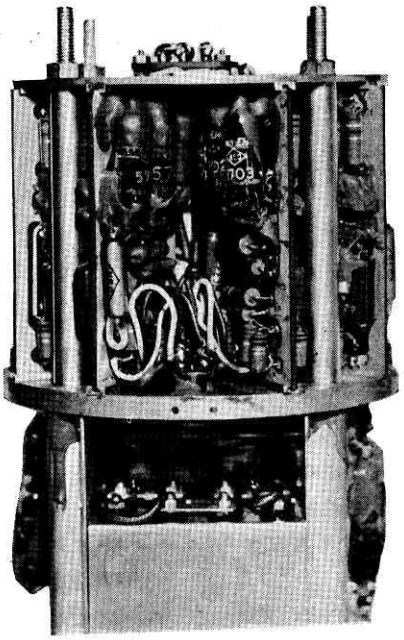


第 7 図



第 8 図

全体の構造としては4本の支柱で副搬送波部，高周波部，およびB電池を固定し，かつロケットのかん合部に取り付けるもので第7図にその写真を掲げる．第8図は高周波部の内部を示す写真である．

寸法は 108φ×235 mm，重量は約 1.7 kg であって今まで試作したこの種のテレメータ送信機の中では，もっとも小型軽量となった．

5. 実験結果

カッパ 122S 1号機よりカッパV型2号機まで合計8機の飛しょう実験を行ったが，その結果については別に報告されるのでテレメータ送信機の計測事項についてのみ第2表に掲げる．

6. むすび

以上 K-4B 型の概要と実験結果を述べたが，機械的にも電気的にも十分の性能を有することが確認され．本観測用としても気密の点をさらに考慮すれば十分使用に適するものと思われる．

おわりに終始ご指導とご協力をいただいた生研高木昇教授，野村民也助教授，黒川兼行助教授，山本尚志助手当研究所仲丸室長および高橋健一氏，中島恪氏に深謝の意を表する．

(1958. 8. 20)

第2表　計測事項

発射月日	ロケット	測定入力				
		ch. 1	ch. 2	ch. 3	ch. 4	ch. 5
32-12/23	K-122S-1	加速度 X_1X_2	振動Y	振動Z	ヒータ電圧 H	B電圧 B
33- 2/10	K-122S-2	X_1 X_2	Y	Z	H	B
3/ 6	K-122S AT-1	X_1 X_2	Y	Z	H	B
3/ 7	K-122S AT-2	X_1 X_2	Y	Z	H	B
4/24	K-150T-1	H	X_1 X_2	Y	Z	B
4/24	K-150T-2	X_1 X_2	H	σ	B	T
4/29	K-V-1	H	X_1 X_2	Y	Z	B
5/26	K-V-2	H	X_1	X_1	σ	T

註　X_1：加速度　Z：Z方向動振　σ：翼の歪
X_2：減速度　H：送信機ヒータ電圧　T：温度
Y：Y方向振動　B：送信機B電圧

文　献

(1) 大井，佐伯：生産研究 1957年4月
(2) 〃　〃　〃 1957年11月

正　誤　表（9月号）

頁	段	行	種別	正	誤
12	右	13	本文	(または $\overline{42}$ m)	(または 42 m)
15	左		第9図(a)	$\left\lvert \frac{E(x)}{E(o)} \right\rvert$	$\frac{C(x)}{C(o)}$
〃	〃		〃 (b)	$\angle E(o)-\angle E(x)$	$\phi(o)-\phi(x)$
20	右	16	〃	矩形波パルス1個	パルス1個
21	〃	26	〃	V_7 のグリット電位	V_6 のグリット電位
〃	〃	36	〃	急激に V_7 の	急激に V の
22	左	19	見出し	3. 電機子電流増幅回路	3. 電機子電流幅増回路
〃	〃	20	本文	R_s は	R_3 は